

グループトーク「大間視察の様子を聞いて、何を感じたか」

A班：7人（視察メンバーである竹中氏を含む）

竹中：では、1枚ずつ貼っていきましょうか。一気に貼ると多くなってしまうので。

—— ここから貼っていくのですね？ 福島被害から学ぶ想像力がほしい。それが無いのではないかとのことですね。

竹中：今回の視察を見て、そのように感じられたということですか？

—— （大間町の人は）福島に行っていないのではないかと。

—— 私は、福島の海がどうなったか。漁業しかないと言っているけど、何かあったときに海が駄目になって、その1つしかないと言っているものが駄目になったらどうするかという心配がないのかなと。もしくは、その問題をどう処理したのか、というのがちょっと気になったところです。

—— 誘致や3.11からだいぶ時間が経って、町全体が落ち着いているのだと思います。時間が経ってしまって、そのときに感じた不安が小さくなってしまったのだなという印象を、皆さんのお話を聞いて感じました。

—— 今回は大間町の意見を聞いているのですけれども、周辺の町はどうだったのかなというところが気になりました。周辺の方の話も聞いてみたくなりました。

—— 安全性の説明とか、あとはご飯を食べに行きましょうとか、そういうお話だけだったのかなと。

—— 今は結構落ち着いた感じっていうのは先ほどの方と同じ意見で、最初の誘致の時から住民の方は興味を持って前向きに捉えていたのかなと。

あとは、こうしてみると、小・中学校が新しく、今の街並みに全然合わない。何か変えようみたいな雰囲気があって、昔から住んでいる人はどう感じているのかなと思います。でも、意見的には賛成の方が多いみたいには伺いましたけれども。

竹中：私は、質問をされて面白かったなと思ったのが、大間町と東海村で一番どこが違うと思われませんか、ということを知られて、悩んでしまったのですけれども、こういう視点も面白いなと思いつつお聞きしました。

—— 私はまだまだあるのですけれども。

まず、金で地方の人の頬を叩くような政策は反倫理的である。政策です。もちろん事業者の姿勢もそうなのですけれども、その背景には原発政策というものがあります。

結局、地方の貧しさを利用して原発を押し付けていて、そんなことをやるのだったら、都会に作れと思います。私は、度胸があるなら東京に作れ、そんな度胸がないのだったらやめろと思っています。

もう 1 枚貼りますね。前は、事故は絶対に起こりませんという安全神話があったけれども、福島事故後はそれだと都合が悪いので、「事故が起こっても大丈夫です」という言い換えになっている。安全、安心という言葉がはびこって、そのことに慣れすぎて、皆、大丈夫じゃないの？ とか、新しい原発だから、とか、根拠もなく、安心したいから新しい安全神話にしがみついているのだと思います。

竹中：ありがとうございます。では、一旦そのくらいにして、どうぞ。

—— 書きかけなのですけれども、先ほど話があったように、最初に誘致の動きがあっただけからもう 40 年が経っていると。誘致が決まるまでも長かったし、今も土地の所有の問題などでさらにプランを変更している。それで今は実際に動いていないわけで、動いているものを止めよう、ではなくて、まだ動かしていない段階だから、もう一度見直してもいいのではないかなど。別に作ったから動かさなければならない、ということでもないでしょうし。今までに潤ったから、ここで終わりにしてもいいよね、もらうだけもらっておしまい、という判断でもいいのかもしれない。福島のことがあるから、もう 1 回考え直すというのも、動く前の今だったらいいのではないかと思いました。

竹中：先ほど時間が経ったから、というお話がありましたけど、だからこそ逆に考えられるのではないかということですね？

—— そうです。(不安は) 薄まってきているけど、もう長引いているから、40 年前の結論のままずっとやらなくても、もう一度見直すということがあってもいいような気がするのですよね。

—— 大間町の方から「他の産業が発達していたら、原発はいらないと思うのではないか」という意見があったということは、やはり原発はないほうがいいと皆内心では思っている、あるいは、原発は安全だ、安全だと言われているけれども、やはりどこか不安に感じている人が多いのではないかと思いました。

—— J-POWER の人が大間に来ていると思うのですけれども、そういう会社の人も、今は住民として仲良くやっているのかな、というところが気になりました。どんな感じで生活しているのかなと。

あと、観光に力を入れているようなことをアピールしているのですけれども、なんかそうは見えない（笑）。

—— そうはしたいけど、やはり無理じゃないか、とどこかで思っているのではないかな。地の果てだから。

—— 同じことかもしれないですけれども、会社の方は、せつかく住民になるのだったら、町のイメージや観光のイメージも一緒に考えていってもいいのではないかな、と思います。安全性の説明ばかりしに行って、アイデアを出さないというのは、ちょっと住民になり切っていないかなと。

竹中：他にいかがですか？

では、私から。大間町を見に行ったときのなんとなくの印象なのですが、原発がなくてもこの町はやっていけるなと思いました。豊かと言えるほど豊かなのかどうか、本当のところは分かりませんが、街並みを見ていて、ああ、別に原発がなくてもやっていけそうだなと思ったのが、今回印象的だったことです。

だから、考え直すいいタイミングではないかとか、もっとビジョンを考えなければいけないのではないかとか、そういうことも含めて、いろいろ考える余地はまだあるのだなと思いました。

はい、どうぞ。

—— 避難計画とセットで考えるようになっていないのが問題。アメリカなどでは避難計画ができないところは原発を動かせないわけです。東海も今は大変ですけれども、大間は全然考えていないみたいで、つまり、そこまで想像力がはたらいしていない。「福島被害から学ぶ想像力がほしい」という付箋と似ていますけれども、何かあったときのことまで町の人たちも想像できていないのかなという印象を受けました。

ついでに貼ってしまいますね。日本政府は、核兵器のためにプルトニウムがほしいので原発を進めたい。原子力というのは核兵器か原発か、ではなくて、原発が核兵器のためにあるというのが、日本が原発をなくせない一番の原因ですから。政府には、露骨に、核兵器がほしいから原発を進めるのだ、と言っている人もいるくらいです。そういう背景と結びついて問題として、大間の問題も考えていくべきだと思っています。

—— 全戸訪問の話がいくつか出ていて、結構びっくりしました。原発の方と家族が1対1で話したりするわけですね。そうすると関係が濃くなるのか、何なのか分からないのだけど、全戸訪問は気になるなど。そこで得た声は、じゃあどのような形で反映されていったのか。個人的な情報だったりするわけだけど、すごく濃密な全戸訪問というやり方に結構びっくりしました。それをすごく頻繁に行っていますよね。それは結構驚きました。

竹中：まだありますか？

—— はい。とはいうものの、お金は大事なかなと思います。いろいろな意味で。お金をもらっているから言いたいことを言えないのでしょうか、ということは、やっぱりお金が大事だからですね。お金が要らないのなら、言いたいことを言えばいいじゃないですか、ということになってしまうから、言いたいことを言えないということは、お金が大事だと思っているということだろうかなと思います。私もお金は大事だと思っているし、大間の人たちもお金は大事だと思っているのだろうなと感じました。

竹中：皆さん、貼りましたか？ そうすると、次は、お互いの意見の類似点や相違点ですね。

—— これとこれはセットなのだけど、お金がほしい人のところに行って、「お金をあげるから」と言って懐柔しているわけです。全戸訪問もそうですけれども、弱みを突かれたら、どうしてもフラフラッと来ますよ。

—— お金を配っているかどうかは分かりませんよね？

—— かつては配りまくっていました。

—— かつてはそうかもしれないけれども…。

—— かつてはそうだったから、今もそれがまったくないとは言えない。直接札束を渡すのではなくて、金銭的なものと引き換えにどうですか、と言っていることは間違いないでしょう。だから小学校とか、あんなわけの分からないものが建っているのです。

—— 町に交付金が下りるのはもちろんのことです。

—— 「原発が来ると、道路がよくなったり、町の様々なものがよくなったりしますよ。いいじゃないですか？」と言われたら、フラフラするじゃないですか。

—— うん、だからお金は大事だと私も思うし、

—— お金の部分につけこんでいるのではないかと。

—— つけこまれている自覚はあります。

—— それが先ほど言った、弱みにつけこんでいるということです。

—— いい使い方をしてくれればいいかな、という気もしているのですけれども。全部イメージがバラバラなので。

—— どこもそうですよ。なぜこの地域にこんなものかというお城みたいな箱物がボンボンあるわけですから。それが有効に活用されているかということ、人口も少なくて年寄りばかりなのに、立派な体育館があって、誰も運動していない、みたいなことがあちこちで起きているわけです。箱物だらけで町が疲弊していく、みたいな。

—— 地元にあった箱物でも、

—— 東海は30～40年かけて、ずいぶん立派になりましたけれども、大間は原発ができて40年後に同じくらい成長しているかということ、そのイメージがつかない。立地も悪い気がするし、交通の便もよくないでしょうし。

—— 40～50年して、原発がなくなったらどうするのか。40～50年後の町のことまで考えているのか。そうしたらまた新しい原発を作ろうと言って、福島みたいになっていくのか。

竹中：その辺りは、お互いの意見の類似点みたいところで、ビジョンがちゃんと考えられているのかな、というところは皆さんが疑問に思っているのかなと思います。

どうですか？ いや、意外とビジョンが見えているのではないか、という意見の方はいらっしゃいますか？

木村：はい、それでは、前半の共有はここまでにさせていただきたいと思います。

グループトーク Aグループ (1/2) 「大間視察の様子を聞いて、何を感じたか」

福島は被害から学ぶ想像力がほしい	地方にその貧しさを利用して原発を押しつけず、都会に作れ。	たぶん時間が経って、町全体が落ち着いているのだと思う。(誘致から) (3.11から)	福島の海がどうなったか。同じことが大間で起こったらどうなるか。	大間の周辺の意見も聞いてみたい。
金で地方の人の類をたたくような政策の反倫理。	安全神話からまだ抜け出せていない人が多い。	他の産業が発達したら原発はいらないと思うということは、不安ということでは？	40年間動かなかった現状。もう一度本当に建設、運転必要か考えてもよいのでは？	会社の人も住民なのか。
避難計画とセットで考えるようになっていないのが問題。	日本政府は核兵器のためにプルトニウムをほしいので原発を進めたい。	お金は大事。	全戸訪問。	観光に力を入れていようには見えない。
		ビジョンは見えているのか？	会社は安全性の説明だけでなく、町のイメージと一緒に考えていったほうが良いのでは？	大間町は原発がなくても成立するのでは。
				大間町と東海村の何が違うのか、という視点が大事。